

世界のアタッシェから

現

在、私はボストンに駐在しています。皆さんは、ボストンがアメリカ独立戦争の起点となったことをご存じでしょうか？ 1773年のボストン茶会事件がきっかけとなり、アメリカ独立戦争は始まりました。当時、イギリスは経営が困窮していた東インド会社を救うために、関税なしで独占的にアメリカに紅茶を売ることを認める茶法を制定しました。それにアメリカは反発し、ボストンで停泊中の東インド会社の船を襲撃し、紅茶 342 箱を海に投げ捨てます（ボストン茶会事件）。これがきっかけとなり、イギリスとアメリカの戦争が始まることとなります。その後、長く苦しい戦争を経て独立を勝ち取ることができたことから、アメリカ人は今でも独立記念日を特別な日として祝い、先人に感謝をしながら過ごしています。ところで、この茶会事件を引き起こした組織のリーダーはサミュエル・アダムスという政治家です。そう、ご存じの方も多いと思いますが、その後、サミュエル・アダムスは地ビールの名称にもなり、現在でもアメリカ最大の地ビールとしてアメリカ中で愛されています。また、アメリカでは街中にカフェがあふれかえっています。そして、カフェやレストランでコーヒーを楽しむだけでなく、職場にも必ずと言っていいほどコーヒーメーカーがあり、多くのアメリカ人は紅茶よりもコーヒーを好んで飲んでいます。その理由もこのボストン茶会事件に由来していて、今に残っているのです。

ボストンにお越しの際には、ぜひ歴史に思いをはせながら、サミュエル・アダムスとコーヒーを楽しんでみてはいかがでしょうか。

(IHI INC. 桑田 巖)

BOSTON



ロ

ンドンには多くの観光名所があり、季節を問わず多くの人々が旅行にいらっしやいます。私の住まいからすぐそこには、世界一有名な横断歩道 Abbey Road Zebra Crossing (Abbey Zebra) があります。ビートルズのアルバム『Abbey Road』のジャケット写真でファンにはおなじみ、そうでなくとも一度は見たことがあるのではないのでしょうか。ビートルズが使っていたスタジオもすぐ横にあります。ここはマンションが立ち並ぶ住居エリアですが、ロンドン中心部からほど近い St. John's Wood 駅を降りて徒歩数分とアクセスのしやすいこともあり、多くの観光客が集まります。平日休日問わずにぎわっていて、アルバムジャケットの構図のように横断する姿を写真に収めています。公道なので路線バスや自動車が行き交いますが、ドライバーたちも事情をよく分かっていて手前で停車し、一つの撮影が終わるのを静かに待ってくれています。

ゴールデンウィーク (GW) 期間中などは特に日本人観光客が増えます。今年の GW には幼稚園に出掛けるわが子と一緒に家の前で通園バスを待ちながら、Abbey Zebra に向かう人々を観察しておりました。朝早くはとりわけ多くの日本人が出掛けているようでした。人だかりの少ないうちに Abbey Zebra 行脚を終えるのは効果的な選択肢です。構図にこだわりたい人も複数回の撮影トライアルに臨めます。納得のいく1枚を収めたら隣駅の Baker Street に移動してシャーロックホームズ博物館に足を運んでもよし。ロンドン中心部の大英博物館に移動して朝の開館からじっくり見学してもよしです。

(IHI Europe Ltd. 古挽 彰)

LONDON



シンガポールと聞いたとき、マーライオン、マリーナベイ・サンズ、チリクラブなどを思い浮かべる方も多いでしょう。シンガポールは東京23区ほどの大きさの多民族都市国家で、洗練された高層ビルが立ち並んでいると同時に、奇抜なデザインの建物も多くあり、見る者を圧倒します。電線も地中化されており、街全体がとてもすっきりしています。しかし、街を歩きながらあらためて気付くのは、その緑の多さです。シンガポールは国をあげて緑化を推進しており、緑の多い都市としても有名です。このようにさまざまな要素がバランスよく調和し、どこか落ち着く都市空間を演出しているように思います。



こんな都会のオアシスの中で、自然の面影もしっかりと持っていることに気付かされることがあります。私の住まいは、人や車も多いオーチャード通りから少し歩いた場所にあります。ある日、家の周りで愛犬の散歩をしているときのことでした。ふと道路脇の木を見ると、奇妙な鳥が止まっているのです。くちばしの付け根から角のような突起がある鳥、サイチョウです。サイチョウとの出会いはこの1度だけではありません。この都会のオアシスには、単なる緑の空間があるだけでなく、そこにはしっかりと自然も生きているのです。シンガポールにいらした際には、ぜひこの近代的な街並みのみならず、そこにある緑の中に視線を向けてみてはいかがでしょうか。サイチョウとの出会いには運が必要かもしれませんが、リスやトカゲなど多くの小動物とともに新しい自然の形を見つけることができるかもしれませんよ。

(IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD. 山口 真)

SINGAPORE

インターネットが全世界で普及し、われわれの生活にも大きな影響を与えています。特に中国での日常生活では、さまざまな場面でスマホを活用できるネットサービスがあふれていますので、実際にあった1日（休日）の生活を例にして、中国のネット社会を紹介したいと思います。

朝、スマホでluckin coffeeというアプリでコーヒーと朝食を注文し、23分後に到着。朝食の後、外に出掛けようと、DiDi モビリティというアプリでタクシーを呼びました。乗車後少し渋滞していたので、アプリの推奨ルートに変えてもらい、目的地には予定どおり到着できました。そこでお財布を忘れたことを気付きましたが、全ての支払いはAlipay（アリババ社ネットバンク）で済ませられますので、心配はありません。昼食後、近くのスポーツジムに行くことにしました。少し距離があるので、シェアリング自転車のMobikeを利用して移動。到着後、スマホの画面で、節約できたCO₂排出量と消費カロリーを確認し、ちょうど良いウォーミングアップになったと思いながら、無人スポーツジム Supermonkey に入館。国際ライセンスをもっているトレーナーと一緒に Les Mills BODYPUMP（トレーニングプログラム）で、良い汗をかいて帰宅。夜になって、足が少し痛くなってきたので、町当快薬というアプリで、薬剤師と直接相談しながら、湿布を購入したら、30分後に自宅に到着。

以上のように、ネットサービスの充実で、われわれの生活が大変便利になった一方で、生活上のさまざまな情報がビッグデータに蓄積されていると考えると、個人情報^{の漏えい}と紙一重のところもあります。ビッグデータが次々と新しいサービスやビジネスを生み、合理的でスピードを好む多くの中国人がそれらをまず活用して^{とつた}みて、新ビジネスが淘汰されていく。この辺りに中国が成長を続けている一因があると考えています。

(IHI (Shanghai) Management Co., Ltd. 王 鵬)

